

八王子市市史編さん室だより

稲 荷 山 通 信 第 9 号

発行日:2012(平成24)年3月22日

発行者:八王子市総合政策部市史編さん室

〒193-0943 八王子市寺田町1455-3

TEL 042(666)1511 FAX 042(666)1512



『新八王子市史』資料編の刊行はじまる!

市制施行100周年に向けて進めている市史編さん事業の成果として、『新八王子市史』資料編 近現代1をはじめとした図書を順次刊行します。

本年1月には『村明細帳集成』(八王子市史叢書1)を刊行し販売しております。4月以降、『八王子市史研究』第2号(特集 大正100年と八王子)、『八王子市西部地域 恩方の民俗』(新八王子市史民俗調査報告書 第1集)、『新八王子市史』資料編5 近現代1を販売します。(詳細は次頁をご覧ください。)

Contents

『新八王子市史』資料編の刊行はじまる!	1
刊行計画を、一部変更しました	2
販売中の図書のご案内/4月以降に販売予定の図書	2
〈地域からの声〉⑤ 八王子市鎌水 小泉 茂さん	3
受贈図書・資料(平成23年10月1日から平成24年2月15日まで)	3
専門部会の主な活動(平成24年2月まで)	4・5
中世の八王子を語って、そして考える~市民講座の報告~ 柳沢 誠	5
新しい市史の編さん—市民協働を軸に—	6・7
歴史の窓⑨ 『横浜毎日新聞』と八王子 宮崎翔一	8

刊行計画を、一部変更しました

市史編さん審議会は、平成23年11月29日に答申「八王子市史刊行計画の一部変更について」を市長に提出。この答申を受け、「市史編さん基本構想」の刊行計画を、右表のように変更しました。原始・古代、中世、近世(上)、近世(下)の通史編の刊行を繰り延べました。

No.	年度 部会名	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)
1	原始・古代			通史編		
2	中世		資料編		通史編	
3	近世	資料編1		資料編2		通史編上下
4	近現代		資料編2		通史編上	通史編下
5	民俗					民俗編
6	自然		自然編			

販売中の図書のご案内

1 『むらめいさいちようしゅうせい村明細帳集成』(八王子市史叢書1) A5判 454ページ 1000円

江戸時代から明治時代初めにかけて作成された、村ごとの様子を書き上げた「村明細帳」を収録しました。村内の田畑の取れ高や地味、寺社仏閣の数と名称、家数や男女別人数、川や橋などの村の様子や、いりあい入会やまくさば秣場、作付けされる作物など、かつての人々の暮らしぶりがわかります。

2 『八王子市史研究』創刊号 A5判 170ページ 500円

特集 地方主権時代の歴史編さん

☆購入の方法(郵送の場合：市史編さん室のみ取扱い) ご不明の点は、お気軽にお問い合わせください。希望する書名と冊数、送付先、お名前、電話番号を明記し、書籍代金の総額(郵便局で購入した「定額小為替」か、現金の場合には現金書留で)と送料<図書を入れた荷物の重さで送料が決まります>の切手を同封し、〒193-0943 八王子市寺田町1 4 5 5 - 3 八王子市市史編さん室 までお送りください。

☆販売場所 八王子市役所(1階 市政資料室)<元本郷町> 八王子市郷土資料館<上野町>
八王子駅南口総合事務所(『市史研究』のみ)<JR八王子駅> 八王子市市史編さん室<寺田町>

4月以降に販売予定の図書

1 『八王子市史研究』第2号 A5判 187ページ

本年度が大正100年に当たることから、大正天皇陵のある八王子市として「大正100年と八王子」を特集しました。他に、若手研究者などによる八王子研究の論文や報告を掲載しています。

2 『八王子市西部地域 恩方の民俗』(新八王子市史民俗調査報告書 第1集)

江戸時代は甲州・相州との物流の動脈であった佐野川往還(あんげ道)に沿う、山村の面影を色濃く残す恩方は、伝統的な生活のなかにも現代的・革新的な面を持つ地区です。伝統的なムラづきあい、新たな市民活動、林業や織物、かつての食生活、行事などのお話を、地域の方々から丹念に聞き書きして記録しました。

3 『新八王子市史』資料編5 近現代1

明治維新から昭和の大合併のころまでの資料を7章に構成し、章ごとに解説を付しています。平成19年度から市史編さん室で整理した貴重な文書群から、特に重要と思われる文書を紹介しています。また、町会保存の文書も一部掲載しました。旧市町村ができる前にあった明治時代の戸長役場時代の文書のほか、戦時中や大合併時の文書、また徴兵に代表される軍事関係の文書など、あまり知られていなかった資料も収録しています。

〈地域からの声〉⑤

八王子市鑑水 小泉 茂さん

かつて「日本の絹の道」がかよっていた鑑水。生糸だけではなく、多くの人の夢や思いを運んだ道の側に農家の長男として生まれ育った小泉茂さんに、お話をうかがった。

「古いものが好きで、小さいころから石器や石斧を集めていた。見ているだけで昔の人の気持ちが伝わってくる」。鎧や日本刀も集めているが、所蔵品の中で一番多いのは、かつては身近なものだった火熨斗〈現在のアイロン〉や糸巻き、農具といった生活用具だ。その豊富なコレクションを授業に使いたいと、自宅まで借りに来る市内小学校の先生もいるという。

昔と今で一番変わったと実感するのは、「暮らし向き」と即答した小泉さん。「火熨斗なんて見ても、今の子どもたちには使い方も想像できないらしいんだな。こんなに変わるとは思ってもみなかった」。この実感が、生活用具を大切にすることにつながっているのかもしれない。

古いものへの深い愛情の一方で、新しいものへの好奇心も人一倍強い。ビデオカメラの出始めにはすぐを買ってみたし、カラオケにも挑戦した。「目立ちたいのよ。人の意表をつかないとモテないからな」。日本舞踊をたしなんだり、木彫りで仏像を作ったりもした。今では俳句を月に三句以上詠むなど、88歳とは思えないほどパワフルで多才な毎日を送る。

自然体で生活を楽しむ小泉さん。新しい市史への要望をうかがうと、「この辺りのことをそのまま書きとめておいてほしいだけだな」。若い人に昔のことを教え込もうという気は全くないが、聞きに来る人とは何時間でも話し込むという。変化の激しい時代だからこそ、「ありのままを書き残していくことが大事だ」と力をこめた。

ご自宅を失礼する際、玄関先で「ほら、蛙が六匹。ム(六)カエル〈玄関で迎える〉ってこった」と、少年のように笑った小泉さん。小泉さんのもう一つの趣味である石彫りの大小の蛙が六匹、愛嬌のある顔でこちらを見ていた。

(市史編さん専門員 春日祐美)



受贈図書・資料

平成23年10月1日から平成24年2月15日まで

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

【個人など】 畔上能力 新井二郎 石川登志雄 犬飼康祐 岡崎弘幸 奥田重俊 小林訓文
佐藤秀文 瀬沼和重 馬場喜信 雛倉正人 増淵滋 (敬称略・50音順)

【公的機関】 武蔵野市企画政策室企画調整課歴史資料館開設準備担当 館林市教育委員会市史編さんセンター 横手市横手地域局地域振興課 宇治市歴史資料館 板橋区教育委員会生涯学習課文化財係 五霞町教育委員会生涯学習グループ 滋賀県立安土城考古博物館 仙台市博物館市史編さん室 たましん歴史・美術館歴史資料室 埼玉県立文書館 公益財団法人多摩市文化振興財団(パルテノン多摩) 東京大学総合研究博物館 (順不同)

専門部会の主な活動

平成24年2月まで

原始・古代部会

部会内に編集チームを設け、資料編刊行に向けての作業を進めています。執筆者から提出された原稿を読む側の視点で確認し、図面も新たに作成して、わかりやすい内容づくりにつとめています。昨年8月には東京都埋蔵文化財センターに収蔵されている多摩ニュータウン遺跡出土遺物の撮影を行いました。また、東京都教育委員会、創価大学、明治大学、江戸東京たてもの園にご協力いただき、八王子市の出土遺物を撮影することができました。撮影した写真は資料編に多く掲載されますので、ご期待ください。八王子市では、市内の遺跡を総合的に紹介したはじめての刊行物となります。現在、刊行に向けて急ピッチで作業を進めています。部会会議は6回開催しました。

中世部会

引き続き資料調査を行っています。特に10月からは、市内の寺社等に存在する石塔（五輪塔や宝篋印塔といった供養塔）の調査を開始しました。また、恒例の夏季集中調査を、8月19日から21日の日程で、元八王子地区において行いました。元八王子歴史研究会や地域の皆様に多大なるご協力をいただきました。現地調査を行うことで、中世八王子市域の様子をよりリアルに復元していきます。市外では10月に静岡県三嶋大社、12月に京都府の南禅寺と東福寺、福井県の一乗谷朝倉氏遺跡、滋賀県の安土城跡および県立安土城考古博物館へ、資料調査や実踏調査に赴きました。部会会議は3回開催し、資料編の構成や編集方針について議論しています。

近世部会

資料調査・収集は、引き続き市内の家々で所蔵している資料を、市外では神奈川県立公文書館、中野区にある三井文庫などで調査・収集しました。借用・収集した資料は、専門知識のある市民や研究者の力を借りて整理し、資料編に掲載すべき資料を解読しています。また、将来的な保存と利用を考慮して、継続してマイクロフィルム撮影を進めています。

1月には『村明細帳集成』（八王子市史叢書1）を刊行しました。「村明細帳」は、江戸時代を理解するうえで欠かせない資料です。ぜひご活用ください。部会会議は6回開催しました。

近現代部会

『新八王子市史』資料編の編集のため、明治前期、明治中期から昭和初期（農村部 都市部）などの年代で編成したチーム研究会を中心に、作業に取り組みました。今年3月刊行の「資料編5 近現代1」は旧町村の歴史的な行政文書と鎌水町会共有文書を主とした資料集であり、八王子の近現代史研究の基礎資料です。並行して次の「資料編6 近現代2」の編集準備にも入っています。

資料の調査・収集は、主産業の組合所蔵資料、市の行政文書、家ごとに所蔵されている文書などを収集し、順次マイクロフィルム撮影をしています。部会会議は6回開催しました。

民俗部会

昨年度から今年度にかけての調査成果を『八王子市西部地域 恩方の民俗』として、3月中に刊行します。この調査報告書では、記録類だけではわからないかつての市民の暮らしの様子を知ることができます。ここ40～50年の暮らしぶりの変貌には著しいものがあります。次世代に伝えたいものです。

今年度は由木地区の民俗調査に入り、昨年5月に概要把握のための現地調査、11月には鎌水歴史研究会の例会に参加させていただいて調査し、今年3月には越野での合同調査を予定しています。由木地区の年中行事の記録と写真撮影も行いました。部会会議は5回開催しました。

自然部会

部会の規模も大きくなり、地質、気象、植物、ほ乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類(クモ類含む)の8つのグループで調査研究を進めています。自然編の刊行を平成25年度にひかえ、奥田重俊座長のもと8名で構成した企画会議を設置して、企画編集についての検討を重ねています。

昨年7月に、市内の丘陵沿いに位置する小学校6年生とその保護者に野生動物アンケートを実施したところ、予想以上に多種類のほ乳類動物が市内で目撃されていることがわかりました。引き続き各グループで市内調査を実施しています。今年2月には八王子・日野カワセミ会との共催で、「浅川の野鳥観察会」を開催しました。部会会議は1回開催しました。

中世の八王子を語って、そして考える～市民講座の報告～ 柳沢 誠

平成23年11月11日から4回にわたり、市民講座「中世の八王子を語る～船木田荘から北条氏照まで～」を生涯学習センターと共催、多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

第1回「横山党と船木田荘」では、発祥の地が諸説存在する謎の多い武士団横山党と、船木田荘の立地や範囲について考えました。第2回は北条氏照が登場する前の時代に光をあてた「室町時代の長井氏と大石氏」。八王子市域周辺に建てられた寺院と領主の関係をみながら、戦乱期の状況の復元を試みました。第3・4回目は、戦国時代に滝山城・八王子城などを拠点として関東を舞台に活動した北条氏照の足跡を中心に追いました。第3回「北条氏照の滝山領支配」では、戦国時代に至るまでの関東の政治状況と、氏照が大石氏へ養子入りした経緯、その支配領域「滝山領」の支配の様子や、氏照の人となりに迫りました。第4回「北条領国の拡大と北条氏照の役割」では、氏照が戦国大名北条氏の領国拡大にさいして、具体的にどのような役割を担い、活躍したかをみました。氏照が築城した城や、自らの支配領域における政治手法についても考えました。

講座を通じて鎌倉時代から戦国時代までの「中世」を考えた結果、いくつかの課題もみえてきました。船木田荘と横山荘が同一の荘園を示すかどうか、また、大石氏が現在の八王子市域に入って来た当初、拠点としたのはどこだったかということも、もう一度考えてみたいところです。氏照が築城に関係した城の機能や役割についても、それぞれの城下(町)の展開に注目しながら、今後の調査を進めていきたいと思えます。

(市史編さん専門員)

新しい市史の編さん ―市民協働を軸に―

1 市民と歴史編さん

学習院大学の福井憲彦学長は『歴史学入門』(2006 岩波書店)で、教員が毎年入学してくる学生に向けて次のように呼びかけていると紹介している。

おそらく、いままでは歴史像の受け手、消費者の位置にみなさんはいたと思う。これからは、いかにしてそれらの歴史像が生み出されてきたのかについて学び、みずからが歴史像を描き発信する側、つまりは生産の位置に立てるように努力しよう。そのためには無手勝流ではだめで、やはり一定のルールを学び、方法を身につけなくてははいけない。そのための勉強に励もうではないか(以下略)

できあがった歴史像を受け取る消費者ではなく、我が住むまちの歴史像を描き発信する側、つまり生産の位置に立つ市民の方々が八王子市には多い。さらに多くの市民が歴史像を生み出す生産の側に立つことができれば、まちの歴史は豊かに継承され、まちそのものも活性化されていくのではないだろうか。

そのための文化環境を整え、その方向にベクトルを向けるのが市史編さんの仕事である。

2 市民の歴史編さん

戦災の傷痕から立ち直った戦後、市民の歴史への理解と関心は確実に深まり広がった。市内各地では市民が自分たちの歴史像を描き発信する立場で、『市立散田小学校創立二十周年記念誌 地域史 散田とその周辺』(散田小学校記念誌出版会 1985)、『川口の郷土史』(川口地区社教郷土史研究会 1988)、『地域史 萬歴』(万町二丁目町会 1989)、『恩方の歴史年表』(恩方を知る会 1993)など、市民の手で質の高い冊子が編さんされている。そうした地域で先行する活動から力をいただき、それらに続くかたちで市史編さんは存在する。

また、八王子市郷土資料館(博物館法の登録博物館)は、大規模な宅地開発に対する市民の文化財保護運動を契機に、東京オリンピック記念事業として多摩地域では早い時期に歴史系の博物館として誕生した。その郷土資料館に集う市民の中から、歴史を愛好する団体や研究する多くの団体が生まれた。

江戸時代の古文書研究を例にすると、市内鏈水の松丸太が東京湾の第六台場の基礎材として使われたことを明らかにした古文書を探る会(昭和 51 年発足)に続いて、みずきの会(昭和 61 年)、近世古文書を学ぶ会(昭和 63 年)、もみじ会(平成元年)、春山会(平成 5 年)、古文書クラブ(平成 12 年)、21世紀古文書を読む会(平成 12 年)が郷土資料館の講座などをきっかけとして生まれている。これらの会の方々の活動は、八王子市における資料の保存と活用に大きな貢献をされている。

資料保存を強く意識して各会の有志の方々が連携し、平成 14 年度から郷土資料館の「古文書所在調査ボランティア」を立ち上げ、増淵滋さん(古文書を探る会 会長)、光石知恵子さん(同会 副会長)らが中心となって調査を進めた。その一環で、市史編さん室での旧町村役場文書の収集も、早い時期に具体化した。また、ボランティア調査での知見は、『村明細帳集成』(八王子市史叢書 1)に活かされている。市史編さんが、決してゼロからのスタートではなく、私たちの前に多くの市民の地道な努力があることを忘れてはならない。

3 市民の自然の調査・研究と市史編さん

自然部会では市内に生息するさまざまな動植物についての調査を行っている。ご存知のとおり八王子市は広域であり、かつ高尾山・陣馬山・多摩丘陵をはじめとする山地や丘陵地が点在しているため、限られた自然部会のメンバーだけで市内の生息状況を調べることは非常に難しい。また、早くから八王子市内を調査・研究のフィールドとして活動し、素晴らしい実績を積んでいる団体が存在している。

そこで、「八王子自然友の会」をはじめとするいくつかの市民団体に調査の実施や情報の提供をお願いし、現時点での動植物分布状況の把握を行っている。この成果は平成 25 年度に刊行を計画している『新八王子市史』自然編に反映させていく予定である。

市史編さんにご協力いただいている団体と、その活動内容をご紹介します。

◎植 物 「八王子自然友の会」 毎月第 4 土曜日に、市史のための植物相調査を市内各地で実施。また、それ以外の市内調査会などで記録された植物相データも市史編さんに提供。

「フロラ研究会」 市内の植物相調査を実施。また、データの集計も行っている。

「植物クラブ」 市内の植物相調査と植物標本整理を行っている。

◎ほ乳類 「中央大学附属中学・高等学校生物部」(OB 含む) 市内(主に山地)におけるほ乳類の生息調査に参加。また、市内小学生に対して実施した野生動物アンケート調査の集計に参加。

◎鳥 類 「八王子・日野カワセミ会」 同会が行っている市内での野鳥定期カウント等のデータを市史編さんに提供。また、平成 22・23 年度に「浅川の野鳥観察会」を市史編さん室と共催。

◎両生類・爬虫類 「トウキョウサンショウウオ研究会」有志 市内の両生類・爬虫類生息情報を市史編さんに提供。

◎昆虫類 「^{そうしもく}双翅目談話会」 平成 22・23 年度にそれぞれ 1 回ずつ市内で調査会を実施し、調査データを市史編さんに提供。

◎クモ類 「東京蜘蛛談話会」 平成 23 年度に八王子城跡における調査会を 4 回実施し、調査データを市史編さんに提供。

4 市史編さんの考え方

多くの市民の皆様からご意見をうかがい、市史編さん審議会の答申を受けて策定した「市史編さんの基本的な考え方ー市史編さん基本構想」のなかで、「市民協働」の項目を設定し、「生活する市民の視点」からの編さんを行う考えを示している。

地域での先行研究を尊重し、八王子を中心とした地域史研究に実績のある「市史編さん室顧問」、「市史編さん研究協力員」を置き、16 名の方々に着任していただいている。さらに、市史編さん審議会や市史編集専門部会には地域の研究者も入り、『八王子市史研究』では一般投稿の枠を設けている。

(1、2、4は専門管理官 佐藤広が、3は市史編さん専門員 佐藤千枝が担当した)

＜八王子市市史編さんの基本的な考え方ー市史編さん基本構想ー＞から 市民協働

市史編さんにあたっては、生活する市民の視点からの編さんを行うため、以下の方針により市民協働をすすめるものとする。

(1)市民や地域、大学と協働し、地域の歴史を掘り起こすことにつとめる。

(2)市民によるボランティアの活用を図る等、市民参加、参画の機会の拡大につとめる。

(3)地域の研究団体や個人、学校などと連携し、編さん事業の普及につとめるとともに、次世代に向けた人材育成を図る。

歴史の窓⑨ 『横浜毎日新聞』と八王子

市史編さん専門員 宮崎 翔一

明治初年、国内では様々な新聞が発行された。明治初期の新聞として、『郵便報知新聞』(明治5年)、『東京日日新聞』(明治5年)、『朝野新聞』(明治7年)、『読売新聞』(明治7年)などが挙げられるが、その中で、国内初の邦字日刊新聞として明治3年12月8日に創刊された新聞、『横浜毎日新聞』がある。八王子との関連を踏まえて、同紙を紹介したい。

新聞新日毎濱横



創刊号：不二出版編「復刻版 横浜毎日新聞」不二出版1993

『横浜毎日新聞』は、鉛活字使用、洋紙一枚両面刷りという新しい印刷方法を採用し、社長を島田豊寛、編集を子安峻(後の『読売新聞』社長)がつとめ、横浜で創刊された。県令の井関盛良は、新聞のもつ力を国民の「開化」、発展に利用すべきと考え、企画した。

同紙を創刊するにあたり、横浜の豪商である原善三郎、茂木惣兵衛らに資金提供を依頼し、「横浜活版社」を市内元弁天の英仏語学所内に設立して、新聞発行に踏み切った。創刊号の冒頭には「新聞紙の専務は、四民中外貿易の基本を立て、皆自商法の活眼を開かしめん…全世界の動静を計り遠近之物価を参術し彼我の有無を公整するを術と為す者也。此道只外國交際の上に而已然るにあらず、皇國內緒港の形勢を考渉して商理之存する所を四海に較著にし、諸民之智識を發達するは此新聞紙之大功にし、我か活板社の誠

に企望する所」と記載されており、横浜港で展開される貿易に必要な情報を、外国の形勢だけでなく、日本国内の諸港の形勢を踏まえながら人々に伝えることを目的としていた。創刊当時の紙面は、貿易情報を中心に構成され、「外国商人輸出入」、「停泊蒸気船名」、「商館売買」、「外国輸出入」などが記載されている。

八王子の生糸は、明治4年1月20日より「商館売買」と題した売込欄に、「八王子糸九百廿五斤五百四十ドル」と掲載されている。それ以降、毎日のように、八王子糸の取引が報じられている。そのうちの取引相手に、「野澤屋惣兵衛」とある。これは前述した茂木惣兵衛であり、上州高崎出身で、開港直後に横浜へ来住して、野沢屋として生糸売込商を営んだ。同紙の取引記録を見ると、茂木が八王子糸を積極的に購入していることがわかる。横浜の豪商が注目するほど、八王子糸は有力な取引商品として認識されていた。

本紙は、明治7年以降、「雑報」として投書や記事が多く掲載され始める。八王子に関しては、糸の取引だけでなく、生活や出来事に関するものも報じられている。明治9年には、第二師範学校の開校(3月8日)、八王子駅に裁判所出張所の建設(4月12日)、イタリア人が八王子街道を通行(8月22日)。投書では、神奈川県第八大区の小学生の投書(3月8日)による第二師範学校開業式の様子、八王子在住者の投書(3月21日)では、師範学校、地租改正、民撰議院設立への意見などが掲載されている。生活の状況を知る記事の一例としては、8月22日には、八王子近況と題して、八王子の生活習慣に関して、「違式註違(生活習慣の規制の条例で明治7年に布告)の令は無用の長物となり、露脚の婦 立尿の翁は道路に沢山なり。併し、査官は能く職務を勉め、違式の者に逢へば、丁寧説諭を加ふるあり。」という記事がある。当時、脚を露出していること、公共の場での小便は「神奈川県違式註違条例」(明治7年)で禁止されていたのだが、八王子では、違反する人が非常に多かった。しかし、「査官」はきちんと諭しているとの事。規則を守れない住民とそれを丁寧に諭す取締人という視点で描かれている。

その後も八王子糸の情報はもちろんのこと、多摩の中心地域となっていく八王子の様子を知る記事や投書が多く掲載されていく。 (みやざき しょういち)

参考文献 不二出版編「復刻版 横浜毎日新聞」(不二出版,1993年)／横浜開港資料館編『横浜毎日新聞』が語る明治の横浜』第一集(横浜開港資料館,1985年)／横浜市立大学経済研究所編『横浜経済・文化事典』(横浜市立大学経済研究所,1958年)